▶6.5キロのヒラメを持ち上げ、「重い！」と言いながらもうれしくてたまらない鹿島さん

◀1回シャクるごとにリールのハンドルを2分の1回転で巻くとイシナギが食ってきた

▼同じ場所を攻め、クロソイとヒラメのダブルヒット！

鹿島さんのドデカヒラメがすべて証明してくれたって感じ。

▲ゆっくりシャクって、一度止めてジグをフォールさせる。これを繰り返して探っていく

ヒラを打ちながらゆっくりとフォールする。左右非対称ボディのなせるワザ。ここが第2のポイントである。

竿先を止めてジグが横を向いた瞬間。そしてヒラヒラとゆっくりフォールするとき。この2回が大きなチャンスとなる。

「底から5～10メートルほどはスローピッチジャークでネチネチと探って根魚狙い。宙層からは青物狙いで、テンポのいいワンピッチジャークに切り換える。これがスロジギの基本かな」とヨッシー。

食い上げてくることもあるからゆっくりしたただ巻きもアリだし、着底直後から早めのワンピッチジャークを繰り出すのもアリ。状況を見極めながら様ざまなアクションにトライしたい釣りだ。

板倉さんは10分後にもう1枚追加。そのさらに10分後、イソメマン鹿島さんの竿がギュインとヒン曲がった。

「着底と同時にガキッと動かなくなったから、根掛かりかと思ったんスよね。そしたらズズッと動き出して……」と鹿島さん。

全身を使いながらのヤリトリの末に上がってきたのは、6.5キロの大ビラメだった。

「なんだコリャ！　ガチ大ビラメやないか！」「す、すげぇぇぇ！」「やったね鹿島さん！」「スロジギ、ハンパねぇッス！」。まさに大型座布団サイズ。大コーフンである。

「コレコレ！　この食わせ力だよ！」とヨッシーも大喜びだ。

「バンブルズジグシリーズのなかでも、スローは波動が大きいんだ。だから魚へのアピール力は強い。しかもジグのサイズ感が大きいから、食ってくる魚も大きいんだよ。

鹿島さんのドデカヒラメがすべて証明してくれたって感じ。いや～、衝撃的だね！（笑）」

午前6時を前にして、早くもフィナーレを迎えてしまったかのようだった。みんな満足していた。「ねえねえ、これ以上なにがあるの？」と、ほどけた笑顔だった。

だが恐るべきことに、これはほんの序章だった。

5分後の6時ちょうど、板倉さんがイナダを釣った。その28分後、ヨッシーが早めの誘いでイシナギを釣った。その4分後、鹿島さんが再びドでかいヒラメを釣った。その8分後、タカハシゴーがクロソイを釣った。

それから48分空き、7時28分にヨッシーがフォールで良型のヒラメを釣った。その16分後、ヨッシーがクロソイを釣った。その6分後、タカハシゴーがヒラメを釣ると同時に、鹿島さんがワラサを釣り、板倉さんも恐らく青物と思しき魚をバラした。その30分後にタカハシゴーがクロソイを釣り、8分後に鹿島さんがヒラメを釣った……。

これですべてを書き切れているわけではないのがおそろしい。大きくポイントを移動してからも、もはやメモを取り切れないほどの魚が釣れまくった。

真のフィナーレとなったのは、午前10時に板倉さんが釣り上げた4.7キロのヒラメだった。

「釣り始めは正直、釣れる気がしないなぁと思ってたんです」と板倉さん。

「ホントに鉛で釣れんのかよと（笑）。いやぁ、釣れますね。おもしろすぎる！　もう僕、鉛しか信じません（笑）」

どの魚もことごとくサイズが

▲2尾目のクロソイを釣り上げてニンマリするタカハシゴー